

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年12月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094400019		
法人名	株式会社 パラディ		
事業所名	グループホーム 長寿の里 なかばる	ユニット名	本館
所在地	粕屋町甲中原1-20-23		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成24年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様優位をモットーに、馴れ合いの関係にならないように、これまでの入居者様の人生に敬意を払う意味でも、言葉使いには特に気をつけており、「敬語または丁寧語」で接するように努めている。また、職員も入居者様もお互いが支えあえる関係となるよう、関わる時間を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡県粕屋町にある“長寿の里なかばる”は開設から5年目を迎える。本部は佐賀県にあり、社長自ら新鮮な魚や泥つきの野菜を届けて下さっている。24年4月から新統括を中心に職員が結束し、短期間の中で着実に業務改善が行われてきた。利用者中心の環境整備に取り組み、家族との連携にも力を注いでこられた。職員からも「振り返ると知らず成長できている。わからない事も気軽に聞ける関係になっている」と言う言葉が聞かれ、職員個々の力を引き出す取り組みが“長寿の里なかばる”の強さとなっている。利用者の生活歴や特技も大切にされており、習字が得意な方、手伝いを好まれる方、散歩や外出等が好きな方など、個々に合わせた支援に努めている。麻痺のある方も、ご本人と一緒に“自立ができる方法”の話し合いを続け、一緒にお茶碗拭き等をして下さっている。職員との会話を続ける中で失語症の方も次第に単語が増え、笑顔が増えてきている。外部評価当日は雪であったが、ホームの中では利用者の方が“おてもやん”を唄って下さり、他の方も手拍子をされている。「笑う門には福来る」と笑顔で教えて下さる利用者の言葉も印象的で、“温かい”ホームの暮らしぶりが伝わってきた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で「基本理念」を復唱している。また、入職時のオリエンテーションでも理念の説明を行っている。	新人職員も勤務する中、1つのユニットでは終末期ケアが行われ、安らかな看取り支援が行われた。職員個々のケアに、家族から「幸せな時間の提供に感謝しています」と言う温かい言葉を頂いた。別のユニットでも、職員が食器片付け中に「私も手伝おうか」と言って頂き、洗い物や洗濯物たたみを一緒にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候を見ながらホーム周辺の散歩や近隣のスーパーへ買い物へ出かけている。	美化活動等の町内会活動には職員が参加している。近くの地藏尊まで利用者と一緒に散歩しており、地域の方と挨拶を交わし、地域の方が挿し木を下さる関係になっている。地域の夏祭りや敬老会に参加し、ハロウィン仮装行列の時は子供達に“おやつ”を渡しており、子ども獅子舞の来訪時にも利用者が喜ばれている。	ホーム開設時、社長はホームでの祭りができるように駐車場を広くし、夜間用のライトも設置された。地域の方も一緒に楽しめる行事として、“長寿の里なかばる祭り”も企画されており、今後の実現に向けた取り組みを続けていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の勉強会を行ったが、新たな取り組みはまだ行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	両ユニットの活動や入居者様の状況(心身の状態、入退院、入居及び退居等)を報告しており、御家族や地域の代表から出た意見で取り組める内容は改善できるようにしている。	23年から年6回開催しており、利用者も参加している。家族にも繰り返し参加をお願いし、家族の参加者も増えている。参加者個々の“3分スピーチ”も行われ、家族の思いを共有する機会になった。参加者の意見で、職員の名前を書いたボードを玄関に設置でき、家族の希望もあり、24年11月に初の土曜開催も行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営のついて相談に出向いたり、書類提出時等に入居者様の状況や、事業所の状況を報告している。	地域密着型になった時に、粕屋町から最初に指定を受けたホームであり、情報交換を続けてこられた。更新申請等で役場を訪問した時に日々の報告をしており、医療ニーズが高い方の受け入れの相談時も親身に対応して下さり、アドバイスを頂いている。粕屋町主催の研修にも積極的に参加し、日々の業務に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所設立時にユニット入り口が自動ドアとなっているが、ハード面上施錠システムとなっているが、日中は解除している。委員会を設立と勉強会の開催で身体拘束を行わない取り組みを行っている。	委員会活動では、勉強会と共に日々の行動の振り返りもしている。職員の見守りを丁寧に行う事で、日中はユニット入り口の自動ドアを解除しており、センサーマットも身体拘束と考え、家族にも説明し、職員見守りの中での生活が送られている。睡眠薬を服用していた方も睡眠状況を把握し、必要のない方は中止している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で「身体拘束・虐待」について勉強会を行い、普段のケアの中で虐待や拘束に当たることがないか確認を行っている。また、委員会を中心に拘束や虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様が2名いるが、実際に制度について理解している職員は少なく、勉強会も今後予定している。	24年11月に成年後見制度の勉強会が行われた。入居前から成年後見制度を利用している方もおられ、入居後に制度利用になった方もおられる。今後も、制度に関するパンフレット等の準備を行い、他の利用者や家族への説明をしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っており、法改定後は改めて料金等の説明と契約の取り交わしを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	古信等に関しては、行政や国保連も窓口としており、意見箱も玄関フロアに設置している。面会時気軽に意見を言える環境を作り、運営推進会議・家族会等に意見を頂き、臨機応変に対応できるようにしている。	運営推進会議や行事と同じ日に家族会(年2回)を開催し、家族同士の会話も弾んでいる。職員から積極的に家族に挨拶を続け、なるべく本音を話して頂ける雰囲気を作ってこられ、家族からの意見も増えている。ポर्टに職員の名前や写真を玄関に置いたところ、「分かりやすい」と言う感想を頂いた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や普段の業務で職員から意見や提案を聞き、入居者様のためにすることは取り入れるようにしている。	24年3月は人事異動もあり、新人職員も増えた。新統括は職員と協力し、日々の課題を着々と改善してこられた。職員のアイデアを大切にしており、外食や散歩を増やすなどの要望を運営に活かしている。職員が相談しやすい雰囲気を作られており、物品購入などは社長に稟議書を挙げ、検討して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に関わらず、勤務実績等を考慮し、正社員登録を行ったり、非常勤職員の待遇アップに勤めている。職員の勤務希望も対応できる範囲で極力取り入れるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別・年齢・経験等を問わず、本人の「やる気」と「情熱」に基準を置いている。また、職員一人一人の能力に応じた指導を行っている。	職員の年齢幅も広く、男女の職員が勤務している。面接時にホームのプラス面とマイナス面も伝えた上で、「仕事へのやる気」を確認している。縁があつての仕事であり、採用時の面接は時間をかけて行っている。採用後は職員個々の能力を見ながら個別の指導を続け、畑仕事や料理・修理等の得意分野を發揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	申し送りなどで、入居者様に対する接し方や言葉使いに関して指導している。また、ホーム会議で、高齢者ケアにふさわしい言葉使いについての勉強会を行っている。職員一人一人が目上の方を敬う気持ちを常に持つようにしている。	統括や管理者・主任などは、日々の申し送り時に、言葉遣いや尊厳の視点での関わりの大切さを職員に伝えている。接遇や挨拶等の研修も行い、気になる時は個々に伝える機会を作っている。確実に職員の意識付けもできており、尊厳を保持した関わりができています。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や職員の介助レベル等に応じた研修等に参加できるようにしている。また、職員一人一人の介護レベルに合わせた指導を心がけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員のスキルアップの為、実践者研修やターミナルケアの研修、粕屋町主催の研修等に参加して頂くことで、他事業所との交流も図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っており、本人や御家族様から生活に対する要望等を聞きとるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や面談時に、御家族様の困りごとや、要望等を聞き取り、不安等が極力軽減できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学時や本人様との面談時に、生活の様子や状況を聞き取っており、話の中で必要としている支援を汲み取るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念にも謳っているが、職員も入居者様も、共に想い、共に支え合っていけるように、常日頃心がけており、入居者様と共に食事の用意をしたり、おやつ作り等を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、職員も家族とコミュニケーションを取るよう心がけている。また、家族会や運営推進会議では家族にも余興に参加して頂いたり、誕生日には家族がケーキを提供し、家族も一緒に誕生会に参加している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から面会制限の要望がない限りは、面会は自由に行っている。また、御家族にも入居後も友人等が尋ねられるように、入居していることや場所を教えるように依頼している。	家族や友人が訪問して下さる。家族の協力もあり、行きつけの美容室やスーパー等に出かけたり、「墓参りに行きたい」と言う要望を叶える事ができた。家族との関わりを大切にしながらも、今後は職員が同行する機会を増やすと共に、馴染みの方に手紙を出す楽しみも作っていく予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操やレク活動、事業所の行事(外出等)等の参加や、普段の生活の中でも、入居者様同士の交流が図れるように、職員がフォローを行うように心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疾病による死亡の退去が殆どだが、退去後も気軽に立ち寄って頂くよう声かけを行っている。関係の継続に今後も努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りやケアカンファの際に職員や担当職員から、入居者様の日常生活の状況を聞き、その中で意向や希望を汲み取るようにしている。また、記録等でも情報を共有しており、意向の把握に努めている。	「焼き鳥を食べに行きたい」等の意向も聞かれ、利用者も一緒に楽しむ方法の検討をしている。利用者から畑仕事のアドバイスも頂き、植える野菜も教えて下さっている。意思疎通が難しい方も、ご本人のジェスチャー等を根気よく汲み取り、「ラーメンを食べたい」と言う要望を理解する事ができ、ご本人も涙を流して喜んで下さった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活内容の確認はもちろん、入居後も家族や身内の方が面会に来られた際に、なるべく情報を聞き取るようにしている。知りえた情報は申し送り時や、カンファレンス時に職員にも伝えるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の夜間帯の睡眠状況や、その時のその時の心身状態を見ながら、活動内容を考慮している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえうえて、ケアカンファで職員と話し合いを行っている。	多くの情報を把握している職員にアセスメント用紙(ケアチェック表)を記入してもらっている。利用者、家族、主治医にも意見をもとにカンファで話し合い、ケアマネが計画を作成している。“利用者自身の計画”という視点を大切に、洗濯物干しや買い物なども計画に盛り込まれ、体操やケアピクニック、レク等のリハビリの視点も大切にしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は出勤した職員全員で記入しており、出勤前にも記録を読んでから、業務に入っている。ケアカンファや申し送り時に問題点を確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族から出た要望やニーズに対しては、臨機応変に対応ができるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	糟屋郡内での買い物、事業所近隣の公共施設の利用、地域の敬老会、夏祭りなどに参加しており、住み慣れた地域と少しでも関わり続けるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前や契約時にかかりつけ医の確認を行っており、家族の希望を聞いている。	希望の病院に受診できるが、24時間体制で対応して下さる協力医療機関に変更される方が多い。月2回の往診以外に看護師の訪問もあり、各主治医と急変時の連絡方法も決めている。職員や家族が通院介助しており、受診結果の共有もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態で気になったことや、異変等がある時は、訪問診療時に看護師や医師に報告を行い、状態によっては専門医への受診を行っている。24時間協力医療機関と連絡が取れる体制となっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーとの情報交換や連絡が定期的に行っている。また、職員も定期的に面会に行き、本人に安心して頂けるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会がある都度、ご家族様や主治医に当事業所の考え方を伝えている。また日常の中で状況変化が見られたり、終末期に入られる可能性が出てきた入居者ご家族様とは、当事業所、状況に応じて主治医も交えて今後の方針や対応について話し合いを行っている。	ご本人の自己決定を大切に、主治医、家族との話し合いを重ねており、転居を続けた方から「ここで最後にしよう」と言う言葉も聞かれている。24年6月、協力医療機関との連携で終末期ケアが行われた。家族の面会も毎日あり、主治医と訪問看護師も直に駆け付けて下さった。統括からの“悔いの無いように”と言う言葉を胸に、精神誠意、ホームでできる事を行わせて頂いた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は普通救命講習を受けており、ごく少数のスタッフが普通救命講習を受けた経験があるのみでスタッフ全体には普及していない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災委員を中心に避難訓練を行っている。また、緊急連絡網に沿って緊急時は職員が対応できるようにしている。	24年3月には消防署の方も参加頂き、昼間想定訓練が行われた。避難誘導のアドバイスも頂き、訓練時には水消火器の使い方の説明を受け、消火訓練が行われた。西小学校で行われる地域の消火訓練にも職員が参加し、災害に備えてヘッドホルトや缶詰、懐中電灯を準備している。	ホーム内の訓練を続け、状況を見ながら地域の方も一緒に訓練ができればと考えている。夜間想定訓練を行うと共に、災害時の備品に関しても、早めに用意していく予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは「敬語」もしくは「丁寧語」を統一している。また、ホーム会議でも高齢者に対する接しかたや言葉使いについて勉強会を行っている。	言葉遣いに特に注意を払うようにしており、赤ちゃん言葉や命令調にならないように注意している。居室に入る時も、ご本人に伝えて入室している。付き添いを嫌がられる時は無理強いせず、距離を置きながら見守りをするなど、ご本人の意向を優先しており、情報管理も徹底している。	食後のトイレや洗面が重なる時に、時に職員の気持ちに余裕がなくなり、語尾が強くなる場面が見られるとの事。以前に比べて随分良くなっているが、今後も引き続き、職員個々の行動背景を分析し、対策の検討を続けていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に沿って、ケアを行うようにしている。例えば、水分補給の飲み物や入浴の希望等。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の入居者様の精神状態や身体的状態を見ながら、無理強いせず入居者様に合わせた1日を送って頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日化粧を習慣にされている入居者様には継続できるように支援を行っている。また、身だしなみに関しても、ご本人が好きなおしゃれができるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自発的に手伝いをしてくださる入居者様や声掛けに応じられる入居者様と共に、入居者様一人一人の能力に応じて、盛り付けや調理(野菜等を包丁で切ってもらったり、炒め物もして頂いたり)などをおこなって頂いている。	本部から届く食材以外に、代表が新鮮な野菜や魚を届けて下さり、利用者で買い出し(週2回)にも出かけている。利用者に献立の希望を伺い、料理の得意な職員の方々が調理している。味付けや野菜の切り方のアドバイスを利用者がして下さり、魚をさばいて下さる方もおられる。職員も楽しく一緒に食事をしている。	生活歴の中で多様な経験をしてこられた方が多い。今後も引き続き、利用者の方々に個々の役割を担って頂けるように、利用者のアイデアを頂いていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事・水分・バイタルチェック表があり、チェック表を元に状態の把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に歯磨きを行っている。また、入居者様や御家族の希望により、定期的に訪問歯科も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとのトイレ誘導の他に、訴えがある時は、その都度対応している。また、入居者様の表情や行動を観察し、トイレのサインを見逃さないように心がけている。	職員同士で排泄に関する情報共有をしている。定期的なトイレ誘導で尿とりパッドの枚数が減った方もおられる。下着を着用されている方もおられるが、痛み等の体調により、ご本人の希望でリハビリパンツを使われる方もおられる。トイレ誘導時の声かけは他の方に気付かれないように配慮し、ドアの外で待機する場合もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした食事や、1日1500CCは確実に水分補給が行えるようにしている。また、排泄チェック表で排便状況を把握し、毎朝排便ー2日以上の方を申し送っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本1日おきに入っているが、ご本人の希望を聞き、無理強いにしないように気をつけている。	入浴は“朝が好き”“遅めの時間がいい”等の希望もあり、利用者同士で順番を決めるユニットもある。入浴を拒まれる方も声かけを工夫する事で、無理なく入浴される方が多い。衣類なども自分で決めて頂き、洗える所は洗っている。入浴時には会話を楽しまれ、柚子やみかんの皮などを湯船に浮かべている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態を常に観察し、日中は臨機応変に対応している。(居室で休息など)また、就寝時の居室での過ごし方は入居者様の希望に沿っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様が服用している内服情報を薬箱の側に置いており、職員がいつでも確認できるようにしている。また、各担当入居者様の薬の確認も職員は週1回行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫が好きの方、手伝いを好まれる方、散歩や外出等が好きな方、テレビ観賞が好きな方、など入居者様の好みに合わせ、支援できるように努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回定期的に事業所の外出を行っているが、日常では天候や気候、入居者様のその日の心身の状態を考慮しながら、散歩や買い物等に行っている。	ホーム周辺の散歩以外にも、利用者の希望でイオンモールに出かけ、買い物や食事をされている。両ユニット合同の外出も多く、博多ベイサイドへのドライブや、季節に応じて駕与丁公園(バラや桜)、大宰府天満宮(梅)、海の中道(コスモス)の花見を楽しまれている。ヤードームではドーム内の階段を頑張って登られ、望みの場所で練習風景の見学ができ、利用者の方々も喜ばれていた。	今後も引き続き、人員体制を整えながら、レストラン(ガスト等)での外食や、近くの神社への参拝、お墓参りの手伝いも含めて、個別の希望に応じた外出の機会を増やしていく予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に執着が強い方に関しては、小額を所持して頂いているが、個人の預かり金は事務所金庫で保管し、使用する際にその都度出している。個人で買い物に行った際、使っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいる御家族様に手紙を書いて頂いたり、電話の要望があれば要望に添えるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ内にはパット類や不要な物は置かないようにしている。玄関や廊下には手作りの装飾、リビングや食卓付近には、家庭で使用する家具等を設置している。	書道が得意な方に“事務所”や“トイレ”等を書いて頂いている。利用者の便宜を考慮した整理整頓を続け、落ち着いた雰囲気作りに努めてこられた。リビングには季節の飾りがあり、手芸が得意な職員が作られた布の飾り物は利用者にも好評で、今後も手芸を採り入れていく予定にしている。どこからでもテレビが見えるようにソファの場所を工夫し、利用者主体の空間作りを続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のリビングにはソファや大型のテレビを設置し、自由に過ごせるようにしている。また、入居者様の状況に応じ、居室で過ごす時間を考慮している。夜も入居者様同士でテレビ観賞ができるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前使用していた毛布や、家具、置物等を居室に持ち込んで頂いている。入居後も家族やご本人様の要望に応じ、自宅で使用していた物を自由に持ち込んで頂いている。	居室の入り口には職員手作りの小さな着物や魚の飾り物が下げられ、ご本人手書きの名前を貼られている方もおられる。テーブルやソファ、テレビ等の他、位牌や写真などを置かれ、ご本人と家族が中心になりレイアウトを考えている。心身状況に合わせてベッドや家具の配置を工夫している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要な飾り物や障害物等はなるべく設置しないようにし、混乱や転倒に繋がらないように配慮している。また、温もり感のある手作りの装飾物で家庭に近い環境となるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名: グループホーム 長寿の里 なかばる

作成日: 平成 25 年 2 月 20 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	長寿の里なかばる祭りの実現に向けた取り組みを行っていききたい。	長寿の里なかばるで夏祭り等を開催したい。	設備は整っているので本社と話し合いをし実現に向けて活きたい。	6 ヶ月
2	37	防災委員を中心に防災訓練の見直しや災害時の備品の準備をする様取り組みたい。	防災訓練時、地域の方にも参加して頂く。また、災害時の備品の用意をいっていく。	運営推進会議や地域の集まり等で防災の話しをし、当施設の防災訓練に参加して頂ける様、声掛けを行う。防災委員会で備品で何が必要か話し合い購入する。	6 ヶ月
3	38	職員間の連携を強化し、利用者様の行動範囲の把握に努め、職員に気持ちの余裕が出来るよう努めたい。	利用者様の意思が優先出来る環境作りをする。	会議等で業務工程や改善点を話し合い、職員の気持ちに余裕がなくなる時を検討し改善するよう努める。	3 ヶ月
4	42	利用者様に個々の役割を担って頂き、アイデアを頂ける様取り組みたい。	利用者様のアイデアを取り入れたメニュー作りや、お手伝いの機会の増加をして行きたい。	利用者様の個々の能力(出来ること出来ないこと)を把握し、個々にあった役割を担って頂く。会話の中で、利用者様の嗜好やアイデアを聴き、メニューに取り入れる。	3 ヶ月
5	51	外出には行っているが、さらに外出の機会を増やす取り組みをして行きたい。	外出の機会を増やす。	人員体制を整え個々の希望に応じた外出の機会が多くなる様にする。	6 ヶ月